

平成30年度 授業改善推進プラン

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	学年末における検証結果
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「聞く・話す」「書く」「読む」の領域ごとに各学年で押さえるべき内容を把握する。授業では前学年の内容を確認しつつ、押さえるべきポイントを絞って授業を展開する。 交流をする際のグループを意図的に編成する。 読書活動を充実させ、本に触れる機会を意図的につくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと比べながら友達の考えを聞き、考えを深めることができる。 目的意識をもって書き、交流を通して文章をより良くすることができる。 本文を正しく読み、それを根拠として自分なりの考えをもつことができる。 読書に意欲的に取り組んでいる。 東京ベーシックドリルを活用して、言語事項の育成を図る。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習する前の課題に対して、自分の知っていることを表し、考えをもつ。 学習中、ノートに分かったことなど自分の言葉でメモをする。 現地見学や博物館を見学する。 学習後、分かったことやもっと知りたいことを詳しく調べ、新聞等にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもって学習に取り組めるように、地域の実態を生かすことができる。 分かったことや考えたことをノートに言葉や図などで表現できる。 郷土博物館等の施設の活用、身近な地域の遺跡などの観察を通して学習を深めることができる。 学校や公共の図書館、コンピューターなども活用して、問題解決に必要な資料を収集し、調べたことや考えたことを表現できるよう活動を工夫することができる。 東京ベーシックドリルを活用して、地図記号などの知識・理解の定着を図ることができる。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習で学力に応じた課題(計算、思考、発展等)を重点に取り組む。 数量関係を関係を把握するために、数直線や図、表などを活用させる。 多様な考え方を認めるとともに、それぞれに価値付けをする。 自分の考えを他者に伝える場面を設ける。 児童が意欲的に取り組める教材の開発をする。 既習事項を活用できるような取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりに行う計算プリントにおいて指定時間内に75%解ける。 思考問題において、自分のノートに考えを1つは書くことができる。 発展問題において、自力解決や協働的な活動において、解決策を考えることができる。 問題 立式ではなく、その過程において数直線や図、表などで表現することができる。 自分の考えを隣同士や小グループ内で伝えるとともに、全体で発表することができる。 児童が身近で生活に関連した教材の開発をして、児童が意欲的に取り組むことができる。 既習事項を思い出させるために、全学年や前単元の学習内容に立ち戻る指導を行い、基礎基本の定着を図ることができる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 課題や問題における予想や実験結果を言葉だけでなく、絵や図などを用いて表現する。 実験方法を各自が考え、実験する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象や現象から問題を見だし、比較したり、関係付けたり、条件に着目したり、推論したりしながら調べることによって得られた結果を考察し、ノートに図や絵や言葉などで表現することができる。 器具や機器を目的に応じて適切に扱うとともに、実験結果を的確に記録することができる。 絵や図で表現している児童のノートを電子黒板に拡大して映し、説明することができる。 東京ベーシックドリルを活用して、実験や観察した内容を振り返り、理解の定着を図る。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくり出すために、音楽の様々な要素や仕組みに気付くことができるようにする。 鑑賞領域でも、表現領域と結び付けながら、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現する基本となる基礎的な技能、歌い方や演奏の仕方を身に付け、表現するために必要な要素(速度、強弱、音色など)や仕組みを曲想に生かせるようにする。 受動的になりがちな鑑賞の活動を、自分で楽曲の特徴や演奏の楽しさに気付き、自分の言葉で表現できる。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 感じたことやイメージしたことを絵や立体などで表現し、造形活動を楽しませる。 いろいろな作品を鑑賞し、感じたことや思ったことを伝え合う活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材のテーマや素材の性質からイメージを膨らませて平面作品や立体作品として表現している。また表現する中で、手や道具を工夫して使うことができる。 他の作品を鑑賞し、作品の特徴を理解したり、自分の作品に生かしたりすることができる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 主運動につながるように、様々な準備運動を取り入れる。 チームで運動に取り組む、課題を見付けさせ、チーム練習をさせる。 マット運動で上手な子のポイントを見付けさせ、各自の練習に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に応じた準備運動や感覚づくり運動を行い、主運動につながるように取り組むことができる。 自分のチームの特徴に合った課題を見だし、課題を克服するための練習に取り組むことができる。 自分の力に合った課題の解決を目指して、友達の良い点を見付けることで練習の仕方を工夫することができる。 	
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 「トートバック」「ウォールポケット」などのデザインを自分で考え、飾りに使う材料も自分で用意する。 材料をそろえるときにお金をかけないこと、リサイクルすることを考える。 6年生の調理実習にグループで献立を考え、一定の予算内でグループで買い物をする取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの布製品及び布を用いて製作することに関心を持ち、生活に活用することができる。 生活に役立つ布製品の製作計画や活用について考えたり、自分なりに工夫したりすることができる。 安全に用具を取り扱い、手縫い、ミシン縫いを活用して製作することができる。 家族が喜ぶ！食分の献立とおかずについて考えたり、食品を組み合わせで自分なりに工夫して作ったりすることができる。 これまでの学習を生かして、調理計画を立て、安全や衛生に気を付けて調理することができる。 	
生活科	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動(遊び、植物育てなど)を通して、人との関わりや季節の変化、生命の大切さ、自分自身の成長などを感じ、絵や言葉、文章などで表現する。 場に応じた言葉遣いや交通安全など、社会的な生活習慣を身に付けさせ、学習に生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や活動に興味を持ち、進んで取り組むことができる。 活動を通して感じたことや考えたことを、言葉や文で表現することができる。 活動に関連する知識などを、学習に活用したり、伝えたりすることができる。 	